

平成30年度埼玉県オハイオ州スカラシップ
機械工学インターンシップコース レポート⑧
「何かをかくという事」

山本 達也

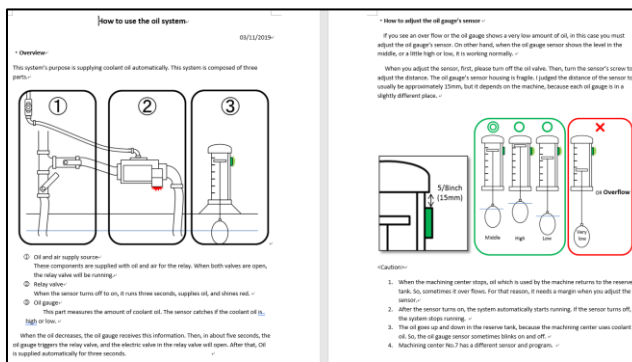
・インターンシップ編

三月も下旬になり、フィンドレーにも遅めの春がやってきたようです。これから徐々に温かくなると願います。

今月は英語で何かを書く事が多かったように思います。オイルシステムのマニュアルを作成するプロジェクトをもらいました。ラインリーダーの方やスーパーバイザーの方に説明する必要性があったためです。ブライアン氏から、こういった時はどういう動きになるのか、このままよりもこういったシステムのほうが良いのではないかと質問されましたが図や表を使って、今のシステムの有用性を示しました。マニュアル作成時には、友人のセミネロさんに相談しました。こういうことを言いたいときにこの単語で正しいのか否か、こういうことを書きたい時、なんて言ったらいいのか、ネイティブスピーカーであり工学部卒の為、相談に乗ってもらいとても助かりました。マニュアル作成時、言葉の選び方が微妙に日本とは違うことを意識させられました。また、工学的な用語の使い方をまだまだ知らないことが多く勉強する必要性を強く感じました。

先月作成したパーツに不具合がありました。ラインリーダーの方に尋ねたところ、いまだに補強したパーツがたわむようでマシンがたまに止まることあるそうです。エンジニアとして自分の仕事に責任を持たなければなりません。不具合の原因を推測して新しいものを作成しました。しかし、まだたわむことが判明して、就業時間を過ぎても原因を探しているとブライアン氏には帰るように言われました。最終的にブライアン氏の協力もあり、完全に作動するストッパーパーツを作成することができました。

これらの出来事から感じたことはコミュニケーションの尊さです。自分ひとりではできないこともほかの人と協力することで解決できることがあると改めて実感しました。また、英語を学ぶおかげでこうして助けを求める事もできるようになりました。私の持つ技術をもって、今後恩返ししていきたいと思います。



作成したマニュアル



改善したパーツ

・フィンドレー大学での生活編

冒頭でも述べた通り、今月はものを「かく」という事がたくさんありました。なにかを「かく」ということは人が成長するにあたって重要なことだと母が言っていました。恥をかいたり、汗をかいたり、文字を書いたり、絵をかいたりすることが良いことだそうです。

今月はランゲージエクステンジを行っていたアンナさんが日本に旅立つとのことで感謝の手紙を書きました。アンナさんには返しきれないほどの恩があります。ネイティブスピーカーであり、英語教示法の先生でもあるアンナさんと沢山話したおかげで、英語で人と話す自信を得ました。

第二言語を習得するのは本当に大変です。うまく話せないと笑われることもあります。間違った使い方をすれば恥をかくことも多いです。しかし、日本にいる外国人でとても綺麗な発音で日本語を話す人がいます。このような人と出会った時に私たちは、日本の言語という文化に対して敬意をあらわして、深い理解をしていると感心します。アンナさんに敬語を教えていた時にこう思いました。果たして、自分の発している言葉や発音は敬意を表しているのか、わかりやすく発声しているのか、言葉の選び方は礼儀に反していないか。そのため、最近になって発音矯正をし始めました。

そして今月はインターナショナルナイトがありました。インターナショナルナイトとは各国々の留学生が自国の文化を発信するフィンドレー大学のイベントです。いろいろな国の衣装や踊りを見ました。日本ブースは浴衣や踊りを披露しました。歌や踊りは素晴らしいと思いました。言語を介さずに行えるコミュニケーションであるにもかかわらず、誰もが理解できるからです。



インターナショナルナイトの様子